

「ニュース女子」の沖縄報道 東京新聞「反省」

沖縄の米軍基地反対運動を取り上げた東京メトロポリタンテレビジョン（MXテレビ）の番組をめぐり、論説副主幹が司会を務める東京新聞（中日新聞東京本社）が2日付朝刊で「反省」を表明した。番組については、「ぶっちゃけ」を売りにした手法が源流にあるとの指摘も出ている。



「ニュース女子」に出演する長谷川幸洋氏=1月2日の放送から

沖縄県東村高江の米軍ヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）建設への抗議活動などを「テロリストみたい」と表現したり、現地の様子を発信する人を募る団体が交通費相当の金銭を支給していることについて「5万円日当」と伝えたりした。「（反対派が）救急車を止めて現場に急行できない事態が続いている」との説明もあったが、現地の消防本部は朝日新聞の取材に「そのような事実はない」と答えている。

番組の源流 ぶっちゃけ手法か

Media Times

メディアタイムズ

ニュース女子は、化粧品大手ディーエイチシーの子会社「DHCシアター」のもので、大阪の番組制作会社「ボーグ」が作っていた。同社は読売テレビ（大阪）の「そこまで言って委

題になつて「事実に基づかない論評が含まれおり到底同意できるものではありません」と説明し、読者におわびした。中日新聞にも掲載された。深

1月2日放送の「ニュース女子」。東京新聞の長谷川幸洋論説副主幹が司会を務めていた。

記事は深田実論説主幹の名前で番組について「事実

書で司会をしていたことに

責任と反省を感じている」と語った。

MXテレビは「他メディアでの掲載内容につきましては、コメントを差し控えさせていただきます」とし、番組で「反対派の黒幕」

辛さんが人権侵害を申し立てた放送倫理・番組向上機構（BPO）放送人権委員会の元委員でジャーナリストの武田徹さんは、今回

まで言つて委員会では2013年、在日韓国人に対する差別を助長する発言があつたとしてNPO法人「コリアNGOセンター」から抗議を受け、謝罪したこともある。

ジャーナリストの安田浩一さんは、関西で制作される一部の情報番組の内容が変容しているのを感じることがあるという。「かつては反東京・反権威で本音をばばばと言いつつ、一定の役割を果たしていたが、今は

員会NP」の制作も担当。同社のウェブサイトによると、ニュース女子は「東京での新事業」だった。専修大学の山田健太教授（言論法）は、そこまで言つて委員会NPとニュース女子とのつながりを指摘する。「長谷川氏を含め、出演者も似通っている。市民活動や、現政権に対する批判の動きを否定的にとらえることがある」

ここまで言つて委員会NPの前身「たかじんのそ」、そこまで言つて委員会NPとニュース女子とのつながりを指摘する。「長谷川氏を含め、出演者も似通っている。市民活動や、現政権に対する批判の動きを否定的にとらえることがある」とある。ジャーナリストの安田浩

一さんは、関西で制作される一部の情報番組の内容が変容しているのを感じることがあるという。「かつては反東京・反権威で本音をばばばと言いつつ、一定の役割を果たしていたが、今は

などと名指しされた人権団体「のりこえねつと」の共代表・辛淑玉さんは先月31日、中日新聞社会長と長谷川氏に文書で抗議した。

「放送されたのは異論でも議論でもなくデマ。それがネットで爆発的に広がった。東京新聞論説副主幹の名前で信用をもたせ、差別をあおった」と憤る。

辛さんが人権侵害を申し立てた放送倫理・番組向上機構（BPO）放送人権委員会の元委員でジャーナリストの武田徹さんは、今回

「反権威 今は排外的気分あおる面」指摘も

「ぶっちゃけ」の名の下に、差別的で排外的な気分をあおることがある」としている。

安田さんは、MXテレビの別の番組に不定期で出演する予定だったが、MXテレビが納得できる対応を取るまでは出演しないと局側に伝えたという。ジャーナリストの津田大介さんも同じ理由で出演を見合わせて